



No.46  
2020.06

# 桜友同窓会報

山形県立楯岡高等学校  
山形県立東桜学館高等学校



同窓会の更なる充実を願って

同窓会長 笹原幸悦

令和元年度の総会で会長を仰せつかりました。同窓会員の皆様には、本会に對しまして日頃から多大なるご支援とご協力を賜り、心より感謝を申し上げます。ありがとうございます。同窓会の目的(①会員相互の親睦②母校の後援)達成のために務めさせていただきます。

さて、私たちの母校は県内初の中・高一貫校として発足し、5年目を迎えました。また前身の県立楯岡高等学校を母体に行っていますので、県立高等学校としては実に創立99年目にもあたります。この間、各界で1万9千4百余名の諸先輩が活躍されています。

私の同期(志峰会)も還暦を迎えてからでありますが、仲間同士連絡を取り合うことが徐々に増えています。安心して戻れる仲間がいるという同窓会の良さを実感しているところです。今後は、東桜学館としての歴史が積み重ねられていきますが、これまで母校に報いるべく、現在、母校創立百周年記念事業に向けて準備委員会を発足し、協議を重ねているところです。この後評議員会を経て今年度の同窓会総会に諮り、実行委員会にパトロンタッチする予定です。

今後とも引き続き皆様方のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



令和の時代に輝くリーダーの育成を目指して

校長 官宏

桜友同窓会の皆様には、日ごろから温かい御支援と御協力を賜り心より感謝申し上げます。

同窓会から奇贈いただきました「千鶴万練」と「東桜魂」の横断幕が日々活動する生徒諸君を激励する中、本校の挑戦は五年目を迎えております。昨年度も、基本理念である「高い志」「創造的知性」「豊かな人間性」のもと、生徒諸君の様々なチャレンジが輝かしい成果として実を結びました。

高等学校においては、地区高校総体団体出場19種目中9種目での優勝。陸上競技部棒高跳びの青山友祐くんが沖縄県で開催されたインターハイに出場。英語弁論県大会では深瀬美希さんが一位、森ありさんが二位と東桜学館が上位を独占。さらに、東北大会で森さんが三位入賞。また、英語ディベート全国大会へ初出場、初勝利、上位入賞校と引き分けなど大健闘。

中学校においては、地区駅伝大会での男子優勝、陸上競技部松本修哉くんが千五百mで東北大会出場。科学の甲子園ジュニア全国大会に初出場など、生徒諸君の挑戦が東桜学館の歴史

史にその歩みを着実に刻んでおります。

いよいよ来年度は、大正10年の「県立楯岡実科高等女学校」を創立とした「県立楯岡高等学校」創立百周年を迎える年となります。

現在、新型コロナウイルス感染症が世界中で猛威を振るっており、本校も臨時休業を余儀なくされるなど、見通しの立たない状況の中でこの原稿を執筆しております。一日も早く生徒諸君が平常の生活を取り戻し、有意義な学校生活を送りながら、創立百周年の記念すべき年の準備を進めることができるよう努めてまいります。

最後になりましたが、教職員一同、県立楯岡高等学校95年の歴史を引き継ぎながらも、本校の特色ある活動をさらに発展・充実させ、すべての生徒が躍進する東桜学館の主役として、それぞれの個性溢れるきれいな桜(はな)を大きく咲かせることができるよう日々努力してまいります。今後とも御支援を賜りますようお願い申し上げます。

なお、本校の教育活動については、随時ホームページにより情報を発信しておりますので併せて御覧いただければ幸いです。

# 同窓会総会

令和元年  
8月3日(土)  
榑岡(うづげ)

令和元年8月3日(土)村山市榑岡にある艶葉クラブで本年度の総会が開催されました。

参加者は約170名、当番幹事は互和会(昭58年3月卒)と双樹会(平成12年3月卒)のみなさん、招待学年は紫陽会(昭和44年3月卒)の皆さんで50名の参加がありました。

今年もオープニングに東桜学園高等学校吹奏楽部(顧問は同窓生布川清先生)の皆さんの校歌や皆さんになじみのある曲の演奏があり、なごやかな雰囲気の中で総会が始まりました。

総会は互和会の遠藤さんが司会進行、副会長の鈴木千岳さんの開会のあいさつで始まり、校歌斉唱は互和会の五十嵐さんの指揮で全員が声高らかに斉唱しました。

中澤同窓会長は挨拶で桜友同窓会となり3年目を迎えたこと、運営協力が年々増加し多くの会員から協力をいただいている事への御礼や、まもなく100周年を迎える事などが話されました。

来賓として出席いただいた官宏校長からは同窓会からの支援、協力に対する御礼と学校内の主な出来事について話がありました。今年度から高校入試で入学した1年生と東桜学園中学から入学した生徒による初めての1年生が誕生したこと、スーパーサイエンスハイスクールの指定のもと様々な事業に取り組んでおり、全国での発表

や入賞など生徒達の活躍が実を結んでいること、ユネスコスクールにも認定されたこと、中学生もいろいろな大会や発表会で活躍していることなどの紹介がありました。

議事に入り、互和会の遠藤さんが議長をつとめ、次の7議案、すべてが承認されました。

- ①平成30年度事業報告
- ②平成30年度会計決算
- ③役員改選
- ④同窓会運営方針
- ⑤令和元年度事業計画(案)
- ⑥令和元年度会計予算
- ⑦来年度同窓会総会(案)

最後に副会長の加藤由紀子さんが閉会のあいさつで終了しました。



## 懇親会

その後、新役員の紹介が行われました。新役員は次の通りです。

- 会長 笹原 幸悦(昭和48年卒)
- 副会長 加藤由紀子(昭和40年卒)
- 佐藤 直(昭和42年卒)
- 森谷 光一(昭和43年卒)
- 青木八栄子(昭和49年卒)
- 監事 正田和歌子(昭和51年卒)
- 柴田 明(昭和54年卒)
- 事務局 安達 直彦(昭和46年卒)
- 原田 成夫(昭和46年卒)
- 井澤 英悦(昭和52年卒)

懇親会は、当番学年の幹事代表あいさつ、中澤同窓会会長のあいさつ、招待学年の紫陽会の田村より子さんのあいさつと続き、懇談がスタートしました。

アトラクションでは紫陽会の方々が当時流行していたグループサウンズモデルの合唱や互和会会員のバンド演奏などたいへんなごやかな雰囲気なか、会が進み

参加者一同大いに盛り上がりました。その後全員で「学び舎の春」を斉唱の春一を斉唱の春一の狩野さんの挨拶があり、閉会となりました。

## 令和2年度同窓会総会は中止

新型コロナウイルスの蔓延がなかなか収束の気配を見せない中で同窓会総会開催の是非について、役員会で協議しました。

総会については昨年度の総会での議決事項であり、評議員会に諮ってはどうかということになりましたが、自粛要請が続く中で協議の開催は難しく、ハガキ文書により各学年評議員(150名)の皆さんにご意見をお伺いしました。

その結果、今年度の総会については見送るべきであるという意見が大多数を占めました。

同窓会則第8条には「評議員会は必要に応じて開き、計画を審議し、緊急の場合は本会議(評議員会議)をもって総会に代えることができる」とあります。

これを受けて、今年度の総会は中止と決定いたしました。なお、総会に諮る議案についても書面による決議とし、会則第8条に基づき、評議員の皆さんに郵送で議案を送付しています。

議案は次のとおりです。

- 1 令和元年度事業報告、決算
- 2 令和2年度運営方針
- 3 令和2年度事業計画・予算
- 4 令和3年度の総会(案)について

- ・招待学年と当番幹事は繰り延べします。
- ・令和3年度招待学年
- ・紫紺会(昭和45年3月卒)
- ・幹事・当番学年
- ・恒研究会(昭和59年3月卒)
- ・ひとみ会(平成13年3月卒)
- ・開催期日等につきましては、改めて評議員会、来年度の会報等でご連絡いたします。

今年度の総会開催ができないことは大変残念ではありますが、このような事態の中では致し方ないことだと考えています。令和3年度は母校が県立高等学校になってから100周年と大きな節目の年を迎えます。多くの皆様からのご参加をお待ちしております。

## 東京支部

### 東京支部総会

#### 新型コロナウイルスで中止

前東京支部長 白谷祐一

◆東京支部の状況  
桜友同窓会東京支部は、支部会員相互の連帯と親睦を深め、桜友同窓会全体の親睦と事業に協力することを目的としており、現在約800人の支部会員で構成されており、

事業、特に支部総会が開催時期、日時等は支部長、副支部長、事務局長および各学年幹事等の合議より決定して進めております。

支部総会は2年ごとに開催しており、毎回100人程度の支部会員の方が出席し、同窓会会長、学長から同窓会本部の活動状況や母校の現状などを紹介していただき、また、前年からは卒業生で第一線で活躍している方に講演をお願いすることにしました。

平成30年の支部総会では千葉大学医学部教授、聖隷横浜病院院長を歴任した昭和31年卒業の「井澤豊春先生」に「健康について」をご講演していただいたところで、

#### ◆令和2年支部総会の中止

今年の支部総会ですが、今年は2年ごとに開催する支部総会の開催年でしたので、3月28日(土)に開催予定で準備を進めてまいりましたが、新型コロナウイルスの影響で、残念ながら支部総会を中止する事としました。

1月下旬に支部役員会を開き、3月28日(土)に支部総会を開催

することを決定して、早速、支部会員にそして同窓会本部の役員の方々に案内状を送付いたしました。

また、総会では、関西大学教授、関西大学博物館長を歴任した美術工芸学者として著名な「文学博士高橋隆博先生」(昭和38年卒みつば会)に「日本の美について」ご講演いただけるようお願いいたしました。

新型コロナウイルスについては、中国武漢市で感染しているというニュースがマスコミに流れていましたが、マスコミもあまり大きく取り上げることがなく、日本国内では、1月にぼつりぼつりと5、6人程度の感染者が発生していたものの、数も少なく、それほど危機感を感じることなく、総会を開催すべく着々と準備を進めておりました。

そのうち2月3日に横浜港沖に停泊したクルーズ船ダイヤモンドプリンセス号から、2月5日に新型コロナウイルス感染者が発見され、その後、日本各地でも感染者が確認され始めました。

この頃は感染者がダイヤモンドプリンセス号のみに集中しており、国内の感染者もそんなに多くなく支部総会も3月末とだいぶ先でしたので、そのうち治まるだろうと楽観的に考えておりました。

しかし、2月18日にダイヤモンドプリンセス号で531名という大量の感染者が確認されました。

驚いて、新型コロナウイルスについてネットで調べたところ、中

国での感染拡大が恐ろしく速く、日本でも感染拡大が危惧され、またワクチン等有効な対処方法がないという状況がわかり、同窓生の命を最優先に考え、直ちに2月21日に支部総会の中止を決定いたしました。

同日に各学年幹事に中止の旨をメールで連絡し、同学年の方への連絡をお願いしました。しかし、学年幹事がいない卒業学年もあり、連絡が不十分でありました。

本来ならば、支部会員の皆様全員にはがきで中止の連絡をすべき所ですが、何しろ郵送料等の予算がなく連絡できませんでしたことを同窓会報の誌面をお借りしてお詫び申し上げます。

運営通信費を振り込んでいただいた方々にはお礼と中止のお知らせ、そして総会で配布する予定でした「次期役員名簿」を送らせていただきました。

#### ◆東京支部のこれから

今回の支部総会の中止の連絡を支部会員の皆様に速やかに連絡することが出来ませんでした。

今後は緊急の場合、メールなどで連絡できるように出欠のハガキに携帯電話番号やメールアドレス等を書いて頂くことなどを検討していく必要を感じました。

東京支部においては、現在会員の高齢化が進んでおります。

関東周辺には、多くの同窓生が住んでいると思います。皆さんに参加を呼びかけ、情報交換をしたいと思っておりますが、住所のわからない方も多数おり、ご案内でき

ません。

同学年などの集まりがありましたら、東京支部への参加を促していただければありがたいです。

さて、桜友同窓会東京支部は役員が一新されました。

新しい役員は次の方々です。

東京支部はこれから新しい役員により運営されていきますので、皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

支部長 青柳義昭(昭和43年卒)  
副支部長 青山和子(昭和43年卒)  
副支部長 前田二郎(昭和45年卒)  
会計書記 熊沢 潔(昭和45年卒)  
会計書記 天野茂雄(昭和45年卒)  
監査役 佐藤和子(昭和43年卒)  
事務局 小澤間次男(昭和47年卒)  
事務局 岡 良子(昭和45年卒)

なお、東京支部への入会については同窓会事務局にお問い合わせください。



### 令和元年度同窓会運営協力金へのお礼と 令和2年度運営協力金への寄付のお願い

令和元年度は、令和2年3月31日現在611件、217万4千円のご協力をいただきました。(ご芳名は10～11頁に掲載)母校への想いとお協力に、感謝とお礼を申し上げます。令和元年度は、会報45号に温故知新(福岡高等女学校学徒労働員等のこと)について掲載したことから、昭和20年から昭和25年までの同窓生にもお送り致しました。おかげさまで、多くの方からご協力をいただき心から感謝申し上げます。ご寄付と本会計からの支出により全同窓会員1万4千名に会報を郵送することが出来ました。まもなく「母校創立100周年」を迎えることから、多くの会員の皆様からの、ご協力、ご支援をいただきますようお願い申し上げます。

### 平成30年度決算の概要

収入		単位:円
入会金・会費	1,970,000	10,000円×平成31年3月卒197名
運営協力金	2,068,000	同窓会運営協力金
繰入	100,000	部活動等支援金
雑収入・繰越金	1,144,312	
計	5,282,312	
支出		
事業費	419,850	総会費・同期祝い金・母校後援費
会議費	60,012	評議員会費等
積立金・諸費等	3,234,374	会報積立金・事務局費・雑費等
計	3,714,236	

※収入5,282,312円-支出3,714,236円=1,568,076円は、平成31年度に繰越

## 東桜学館高校の卒業生進路状況

分類		令和元年度 (令和2年3月) 卒業生(人)		
		男子	女子	合計
進学	国立大学	27	20	47
	公立大学	6	9	15
	私立大学	28	41	69
	国立短大	0	2	2
	私立短大	0	8	8
	看護・医療系専門学校	5	15	20
	看護・医療系以外の専門学校	4	4	8
	職業訓練校・公立大学校	0	1	1
	進学合計	70	100	170
	就職	公務員	2	3
民間	0	3	3	
就職合計	2	6	8	
その他	海外留学等・防衛大学校等	0	2	2
	その他(浪人等)	15	2	17
	その他合計	15	4	19
合計(卒業生人数)		87	110	197

## 令和会

- 会長 西尾颯真  
副会長 能登詩音  
クラス役員  
1組 鏡 海人  
2組 庄司杏菜  
3組 能登詩音  
4組 西尾颯真  
5組 加賀千裕



## 同窓会入会おめでとう

令和元年度同窓会入会式は、令和2年2月28日(金)東桜学館北アリーナで行われました。今年度の入会は令和会(れいわかい)197名、新型コロナウイルスの感染予防のため、残念ですが例年より式次第の一部、校歌斉唱などを省略して短時間での挙行となりました。

笹原幸悦(58年卒)同窓会会長から同窓会の二つの目的、親睦と後援を大書きした紙を掲示して、高校を巣立って新しい道を歩み、それぞれの人生を精いっぱい生きていくだろう。長い人生の途中や、仕事をリタイヤした後など、不思議とスツと戻れる場所がある。それが高校の先輩、後輩、同級生仲間です。今同窓会があるのは先輩方がぶれないで繋いでくれたからで、同窓会はあるものではなく、作っていく、そして後輩に繋いでいくもの。これからの人生私達と力を合わせて、一緒に心の手をつないでいきたいと思います。との歓迎の言葉がありました。

「令和会」会長の西尾颯真君から挨拶と新役員紹介があり、先輩の「恒究会(S59卒)狩野和佳さんから激励の言葉がありました。入会記念として全員に楯岡・東桜学館高校のCDを贈りました。

# 同期会 開催おめでとう

同期会開催祝い金を創設しました。

(申請があれば同期会年1回、10,000円の祝い金) ぐわしくは事務局へご連絡下さい。

下記の学年からは同期会開催時の模様等をまとめていただいた文章と集合写真を提供いただきましたので掲載させていただきます。ありがとうございました。

令和元年度の同期会祝金(10,000円) 支給学年

五葉会(昭和28年卒)	朔風会(昭和55年卒)
紫陽会(昭和44年卒)	いなほ会(昭和57年卒)
志峰会(昭和48年卒)	互和会(昭和58年卒)

## いなほ会



平成30年8月4日開催

平成3年から続けてきた私たち「五葉会」の集いに今回は、遠く大阪からの友や卒業66年にして初めて、という仲間もいて会場ではみんな大盛り上がり！85歳まだまだ若い。にぎやかなカラオケと懐かしい旧友との語りいで眠るのも忘れるほどでした。翌朝も元気いっぱい来年の再開を誓い、握手、握手！

## 五葉会

報告者 横尾 量助



令和元年8月3日開催

## 紫陽会

報告者 田村より子

楯岡高等学校と言えば、舞い散る桜吹雪が目に見えますが、その桜の蕾もまた固い、昭和44年3月に卒業した私達の学年「紫陽会」は、令和という新たなスタートを切った記念すべき年の8月3日、校友同窓会総会に招待学年として参加いたしました。そして、その同窓会終了後に「コアハウス基点」において、一泊二日の日程で古希をめぐる「紫陽会同窓会」を開催しました。



北は秋田から南は千葉や神奈川まで、54名の参加を得て開会し、クラスごとに各自の近況を含めた自己紹介が始まり、花笠踊りや懐かしい高校時代の歌をカラオケで大合唱して、大いに盛り上がりました。恩師の先生方とお会い出来なかったのが残念でありませんが、久々に会った旧友達との語らひは、あれから50年の重みを感じつつ、笑顔いっぱい楽しいひとときとなりました。その時の「また会いたいね」の声に答えて、5年後に再び同窓会を開く事になりました。この様な素敵な機会を頂いた校友同窓会に心より感謝申し上げますと共に、今後益々の発展を祈念いたします。

## 入学式

令和2年4月23日(木)、東桜学館中学校・高等学校の入学式が、新型コロナウイルスへの予防対策として、入学生と保護者、教職員のみで参列で行われました。

中学校は5期生99名、高等学校は本中学校からの第2期の一貫性と各中学校から入学した182名が入学しました。

笹原同窓会会長から入学生へ、「失敗しないことが大切なことではなく、失敗してもそこから再び立ち上がるの方がずっと重要である。何度転んだとしても前を向いてください。解決の方法は必ずあります。仲間と力を合わせ、積極的にチャレンジして、一日一日を有意義に過ごしてください。皆さんが大きく成長されることを期待しています。」とのお祝いの言葉がありました。



入学者代表として、若林こころさんから暫いの言葉をいただき、無事に入学式を終えました。

## 卒業式

令和2年3月1日(日)、東桜学館高等学校卒業証書授与式が行われました。

式は山形県教育委員会から県立高等学校への指示により、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、卒業生と教職員らのみで行われ、在校生や保護者・来賓も参列できず、時間を短縮して、と異例の式となりました。

官宏校長から各クラス代表に卒業証書が授与され、卒業生代表の中嶋良修君があいさつ。教職員が作る花道を通して退場し終了しました。

「桜友同窓会」笹原会長から卒業生に送ったお祝いの言葉は、アップル創業者、スティーブ・ジョブズが語った「Stay Hungry, stay foolish」(ハングリーであれ。愚か者であれ。)自分の心に従って、まっすぐに、目の前のことにどん欲になって歩んでください。過去を振り返ったり、未来を憂いたりする必要はありません。皆さんはただただ今を精いっぱい生きる。それだけで輝くことができるのです。この言葉を胸に留め置き、励みにしてください。

皆さん、卒業本当におめでとうございます。



## 志峰会

報告者 藤野 裕

1組〜6組のクラス代表に同期会開催への参加を呼びかけた。しかし、荒天で降雪の可能性があったことで、開催直前のキャンセルが相次ぎ、結果12名の参加となった。

同期会では、70歳の古希の前に、クラス担当教諭を交えての同期生会を開催して欲しい。

今後、ランチ会など女性が参加しやすい会を開催して欲しい。

などの意見があり、前向きに検討することとした。また、申請者が調べた各クラスの住所録を、桜友同窓会に提出することとなった。



## 朔風会

報告者 齋藤 信之

私達の学年は東京オリンピックが開かれた昭和39年3月に楯岡高校を卒業しました。それから55年が過ぎ、令和元年10月22日、恩師の小関廣明さまのご列席を賜り、村山市のクアハウス基点に於いて、同期会を開催しました。

当日は、県内外から26名が参加、校歌斉唱や物故者への黙とう等、開会行事が終われば早速飲めや歌えや、思い出話に身の上話にと、大いに盛り上がった次第です。

翌日は、秋晴れのなか、午前9時に希望者だけで東根市に向けて基点を出発。最初に東桜学館の校舎を見学。ご案内してくださった同館高校教頭の加藤先生ありがとうございました。次に「東の杜資料館」や国指定の特別天然記念物「大ケヤキ」を見て、漬物と地酒の店でおみやげを買い、昼は極太のそばと歯ごたえ抜群のかき揚げを腹いっぱい食べたところで、山形での5年ぶりの同期会はお開きとなりました。



## 互和会

報告者 遠藤 秀樹

館アンジェリーナにより同窓会を開催致しました。

学年担当の今野先生、上野先生、梅津先生、関野先生、鈴木先生方々から、近況報告と激励のお言葉を頂き、自分たちの退職後の人生設計に大いなるご参考となりました。

その後、各組ごとに担任を囲み、青春時代、その後の家族等の話に花が咲きました。また、組を超えた様々な関わりがあった旧友との話が盛り上がり、予定していた時間は盛会のうちに閉会となり、場所を変え、話ができなかった旧友との懇親をさらに深めて、12年の歳月を埋めることができました。さらに担任団、同級生が60過ぎに集い、時をかけることを確認し同窓会を閉会とさせて頂きました。

この機会を得るに至った、東桜学館高等学校、旧楯岡高等学校の同窓会役員、それに携わった関係各位に感謝と敬意を表しお礼の報告とさせて頂きます。

令和元年8月3日(土)

18時30分より、教員・生徒53名の出席により、天童市二天童温泉緑の迎賓



# 楯岡高等学校及び東桜学館

## 母校創立100周年記念事業に向けて

《創設1899年(明治32年)～1971年(昭和46年)》



蔵王登山(昭和14年)



楯岡女学会役員



楯岡女学会会主加藤夕氏

- 明治32年(1899年) 高等女学校令を公布(各府県に少なくとも1校の高等女学校を明治36年まで設置することを義務つけた) 中学校令 実業学校令を公布
- 明治37年(1904年) 私立楯岡女学会創設される 楯岡町婦人6氏が相談し、郡視学夫人加藤夕氏を会主とし、楯岡尋常小学校の一室を借りて会員13名で発足
- 明治42年(1909年) 私立北郡女学校と改称 会主加藤夕氏、校長となる
- 大正元年(1912年) 独立の新校舎落成 湯沢尋常小学校古校舎をもらい受け、天満神社南方(現、楯岡小学校の隣)に建築した
- 大正4年(1915年) 中山常蔵氏、専任校長となる
- 大正9年(1920年) 山形県北村山郡立実科高等女学校に昇格 修行年限4年、定員200名となる 寺尾英重校長就任
- 大正10年(1921年) 校友会創設 校歌の制定
- 山形県告示第36号により山形県立楯岡実科高等女学校となる
- 新校舎落成式を行う この日を本校では創立記念日としている
- 大正11年(1922年) 同窓会創設
- 大正12年(1923年) 校歌制定、生徒に披露
- 第3代 渡辺毅夫校長就任 校友会誌の創刊(20号まで発刊)
- 大正13年(1924年)
- 第4代 五十嵐善作校長就任
- 大正14年(1925年) 山形県令第35号により山形県立楯岡高等女学校となる 定員(400名)選科を廃止する
- 昭和2年(1927年)
- 第5代 高橋藤次郎校長就任
- 昭和4年(1929年)
- 第6代 斎藤遊雲校長就任
- 昭和6年(1931年)
- 第7代 広川捨吉校長就任
- 昭和10年(1935年)
- 創立15周年記念式典を挙げる
- 昭和14年(1939年)
- 第8代 中村善十校長就任
- 昭和15年(1940年)
- おかめ山開墾 昭和23年まで継続
- 創立20周年記念式典を挙げる
- 昭和17年(1942年)
- 第9代 石塚澄校長就任
- 昭和18年(1943年)
- 専攻科(後に専修科)を新設 高女卒業生を対象に修業年限1年、定員50名、国民学校訓導の免許状が下付されるもの
- 昭和19年(1944年)
- 3・4年生約300名、横須賀海軍工廠田浦兵器廠へ学徒動員出勤
- 学徒動員の寮で卒業式を挙げる



昭和30年頃



昭和43年

- 昭和20年(1945年)
  - 1・2年生全員おかめ山の草刈作業に従事 戦争終結を告げる放送を聴く
  - 動員学徒・挺身隊全員無事帰校
- 昭和21年(1946年)
  - 第10代塚越孔四郎校長就任 楯岡高等女学校として、最後の入学試験
- 昭和22年(1947年)
  - 楯岡高等女学校の募集停止
- 昭和23年(1948年)
  - 山形県立楯岡高等女学校併設中学校を設ける
- 昭和24年(1949年)
  - 学校教育法により山形県立楯岡高等女学校廃止
  - 山形県立楯岡第二高等学校となる(定員450名)
  - 第11代 結城嘉美校長就任
- 昭和25年(1950年)
  - 定時制課程併設(200名)
- 昭和26年(1951年)
  - 定員600名、男女共学となり男子生徒33名入学
  - 「字ひ舎の春」(作詞 鈴木博、作曲 西尾習吉)披露される
  - 校旗を制定
  - 校名を山形県立楯岡高等学校と改称(定員600名) 定時制課程(60名)となる
  - 楯岡新聞 第1刊発行
- 昭和27年(1952年)
  - 定時制課程の募集停止
  - 応援歌・寮歌の応募入選作を発表
- 昭和29年(1954年)
  - 創立30周年記念式典並びに記念事業として講堂増築 落成式を挙行政
- 昭和30年(1955年)
  - 第1回校内かるた大会を行う
- 昭和32年(1957年)
  - 校歌制定 作詞 真壁仁氏・作曲 福井文彦氏を迎え盛大な発表会を行う
- 昭和34年(1959年)
  - 応援団が結成される 第二応援歌発表
- 昭和36年(1961年)
  - 第1代 中戸教之校長就任
- 昭和39年(1964年)
  - 校友会誌(現生徒会誌) 創刊号発行
- 昭和43年(1968年)
  - 創立40周年記念式典を挙行政、ピアノ披露記念音楽会
- 昭和44年(1969年)
  - 第14代 米田満校長就任
  - 新校舎竣工式を挙行政
- 昭和45年(1970年)
  - 生徒会誌と改名(校友会誌第九号)
  - 文化クラブ発表会を「楯高祭」と改称して開催する
- 昭和46年(1971年)
  - 創立50周年記念事業として同窓生の寄付による同窓会館竣工
- 昭和47年(1972年)
  - 創立50周年記念式典を挙行政

次号は1972年(昭和47年)〜2021年(令和3年)を掲載します



# 業の 事等から 学校事 行中

文部科学省のSSH(スーパーサイエンスハイスクール)事業の指定受け、本校では「やまがたの未来をつくるグローバルな視点を持った科学技術人材育成プログラム」を研究開発のテーマとして、5年間取り組んでおります。今年で3年目を迎えました。

特に今年度は東校学館中学から入ってきた生徒と一般高校入試を経て入ってきた生徒が一緒になるはじめての年度となりました。

今年度の報告書から開催された主な事業をご紹介します。

①生徒が主体となる探究的な学びの展開

○学校設定科目「SS総合探究Ⅰ」「SS総合探究Ⅱ」「SS総合探究Ⅲ」を開講した

## ○国際理解講演会

7月23日に国立極地研究所田邊貴子助教を講師に「誰も知らない世界への知的好奇心と挑戦」という演題で南極地域の生態系、実体験、生物などについて講演をお聞きしました。

## ②体系的な校外研修「東校夢フィールド」開発

### ○「蔵王自然観察実習」

山形大学理学部と連携し、身近な山形の自然に触れながら観察の眼を養い、他者と協働しながら調査の方法や技能等についての理解を深めました。

### ○西表フィールドワーク

8月4日から一週間の計画で沖縄県西表島で亜熱帯気候下での自然体験や琉球大学熱帯生物研究センター西表研究施設での研修などを行いました。参加した生徒達は山形とは違う自然と向き合いあらたな自然観を養うことができました。

### ○地域フィールドワークの実施

夏休み期間に自分を取り組んでいる課題研究について地域の諸機関や研究施設に向いて助言をもらったり、データの収集を行いました。

### ③科目融合型の学校設定科「SS自然科学基礎Ⅰ」「SS健康科学及SS化学」「SS物理」「SS生物」の開設

○SSH指定3年目の今年度は、理系生徒に発展的な内容の学習の重視する必修科目として「SS化学」、選択科目として「SS物理」「SS生物」の3年次履修分を開設しました。

## ④小中高大連携事業の推進と高大接続の研究

### ○山形大学理学部、工学部と連携しながら「体験型実習講座」を6講座実施し、山形大学を訪問しての講座を2回2講座、本校で実施する講座を2回2講座受講するシステムをつくり、高校ではできない高度な実験を体験しながら大学の研究に触れることができました。

生徒の知的好奇心を充分刺激し、研究意欲の喚起につながったと考えられる。

○8月30日山形県保健医療大学にて高校1年生全員対象の学習会を実施しました。SS健康科学の授業において保健医療大学と連携して大学教員の講義や体験学習を行うものです。地域が抱える健康・医療の問題や未来の社会を積極的に担っていくとする人材育成を図ろうとする狙いがあります。6分野8講座を開講して頂きました。

○インターネット会議を活用し、東京大学教養学部の「高校生のための金曜特別講座」を年8回開講して、のべ366名の生徒が受講しました。

### ⑤地域の科学拠点校としての発信普及

#### ○3回東校サイエンスラボ

7月27日に地域の小中学生を対象とした親子実験教室を開催しました。

「気圧・水圧を感じよう」  
「身近なもので発電しよう」  
「化石レプリカを作ろう」  
「水棲昆虫を観察しよう」の4コーナーに親子50組約100名の方が参加しました。参加した親子からは好評で生徒からも地域の方と交流できて良かったという声が多く聞かれました。

#### ○SSH生徒研究発表会

8月7日・8日にかけて神戸市で生徒研究発表会が開催されました。

国内から218校、海外10カ国23校、およそ4500人の参加者による大規模な発表会でした。

本校からは「□に入れても安全な色鉛筆の芯を作る」というテーマで木材加工した棒に芯を注入し、色鉛筆風の試作品を完成させ発表しました。

○未来創造プロジェクト中間発表会

10月16日に中間発表会を行いました。参加は本校の他に鶴岡南岩手県立水沢高校、東海大付属高輪台高校の参加を得て、講師には山形大学や県立保健医療大学などから12名の先生方を研究アドバイザーとして委嘱し2グループに分かれ、4回の発表を行い様々なアドバイスを頂くことが出来ました。また、他校との交流もあり、本校の生徒達にも大いに刺激があったようです。

#### ○山形県探究型学習課題研究発表会

12月21日山形市で発表会が行われ、本校は理系部門と文系部門で山形大学小白川キャンパス長賞を一般数学総合分野と自然科学物理分野で優良賞を受賞しました。

○東北地区サイエンスコミュニティ研究発表会

1月、本校を会場に東北地区の全SSH校に参加希望校を入れて

19校から300名近くの生徒・教員が本校に集い、2日間にわたる研究発表会を実施しました。本校からは、「Rebolic(ライスチップ)を作るろう」(化学分野)が口頭発表、「捕食によるフラナリアの形質の変化」(生物分野)、「ペットボトルの温度を低く保つことができる物の組み合わせは？」(物理分野)がポスター発表を行いました。更に、この貴重な機会に本校の一般生徒も見学し、大いに知的刺激を受けた。

その他にもつくばサイエンスツアーや海外フィールドワークとしてハワイ島フィールドワークなども予定されていましたが今年に入ってから新型コロナウイルスウィルス感染症蔓延拡大の恐れがあることから生徒の安全を優先して中止となりました。

なお、この事業の詳細は東校学館のホームページに載っておりますのでぜひご覧ください。





# 地域の話題

## 楯岡高校跡地活用に向けて

村山市では、楯岡高校跡地の活用を第5次村山市総合計画の重要課題に位置付け、最重点プロジェクトとして、経済効果の発揮や中心市街地の再生につなげていくことを目標に取り組んでいます。平成28年11月に「旧楯岡高校跡地活用検討市民会議」を立ち上げ検討を行い、文教施設、生涯学習や貸しオフィスの複合施設、スポーツ施設としての利活用などの提言がまとめられました。

これらの提案を受け具体的な利活用方針の策定に向けた作業を進めるため、平成30年6月、公募による利活用希望者、学識経験者、有識者、県の協力により構成した「楯岡高校跡地活用ワーキングチーム」を立ち上げ検討を行い、市として平成31年3月、「楯岡高校跡地活用基本構想」を策定しました。

基本構想では、「多様な利用者が集い、にぎわいの創出と経済効果を生む拠点」を全体方針とし、当時、約800人の生徒・教職員が集う学びの場所のようなにぎわいを取り戻したいとしています。

一方で、広大な跡地を有効活用していくためには、多様な機能の利用者にとって使い勝手がよく、さらに利用者間の交流が生まれるような拠点を目指すため、「オープン性」や「コミュニティ」の確保・発展に重点を置くこととしています。

令和元年度に公募型プロポーザルを行い、現在、改修工事に関する基本設計と県からの土地の取得を終え、2年度中に実施設計、3年度中に改修工事を行い、4年度の春オープンを目指しています。

今年度、楯岡高校跡地活用を担当する部署として、村山市役所内に、にぎわい創造活性化施設整備室が設置されました。

今後、楯岡高校跡地を「にぎわい創造活性化施設」として事業を進め、愛称募集や入居希望の事業者の再公募も行う予定です。

今年度秋から、耐震の関係上、教室棟や西側にある旧同窓会館、弓道場の解体工事に入る予定ですが、市としては当時の思い出を何らかの形で活かしたいと考えているようです。

同窓生の皆様によるアイデアや多方面にわたるご協力をお願いいたします。



## 編集後記

今回の同窓会報第46号は年号が令和に変わって初めての発行となりました。

昨年の上半期は年号が新しくなったこともあって、なんとなくウキウキした気分だったのですが、昨年末からの新型コロナウイルスの影響で世界中に暗雲がかかったような感じになってきました。

我々の生活はもちろんのこと、学校生活にも大きな影響が広がってきました。

春の選抜、夏の甲子園大会、全国高校総合体育大会（インターハイ）の中止、それに伴う県大会や地区大会までもが中止となっています。ごもたちの目標が次々と奪われていくような気がしてなりません。

山形県内においても、卒業式や入学式が簡素化され、授業も最近までほとんど行われておりません。

幸いにして5月に入り、感染者が減少してきました。これを受けてようやく学校も変則的ですが授業が再開されました。一日も早く正常な学校生活が送れるようになることを願ってやみません。さて、我が母校は来年度県立高等学校になってから100周年の節目の年を迎えます。会報も今号と来年度の会報に100周年の概要を掲載いたします。

また今年度から100周年に向けての実行委員会を組織し、節目の年にふさわしい事業を展開すべく計画しているところです。

現在の楯岡高校跡地の利活用については県から、村山市が土地や建物を取得し、現在新たな賑わい作りの拠点としての利活用を計画しているところです。私たちの学び舎がどのように変容していくのか大変興味深いものがあります。

昨年の総会において、同窓会の役員も大幅に変わり、まだまだ不慣れた事務局ではありますが、少しでも前に進める同窓会にしたいと役員一同頑張っておりますので、今後とも会員皆様方のご支援ご協力よろしく申し上げます。

また、会報に掲載する記事がありましたら是非ご一報ください。

発行所 山形県立東桜学館高等学校内 校友同窓会事務局

〒999-1373

山形県東根市中央南一丁目7番1号

TEL 090-2794175002

E-mail: sakurasaku@docomo.ne.jp

印刷 坂部印刷株式会社